

進捗状況の概要（1ページ以内）

学内の実施体制については

グローバルスタディ、サービスマーケティング、インターンシップの担当者によるスケジュールや事前・事後学修の重複部分などの調整を行い、学生の作成する「ラーニングルートマップ」へオフキャンパスプログラムへの参加意思を反映させるサポート体制をつくることができた。

また、文部科学省への提出書類等の作成を専任職員に集約し、円滑な事業の推進が可能となった。開発したインターンシッププログラムについて、受入先との事務手続を統括し、学生の受入について円滑な調整を行うことができた。

中心となる取組については

学生が4年間の学修計画を立てやすいように、e-ポートフォリオの改修を行った。このことにより、学生が学びの積み上げ計画を視覚的に確認できるようになった。また、学生指導については、昨年度の事前・事後学修を基に、今年度の内容を見直した。具体的には事前学修での目標設定、マナー講座、グループワーク、事後学修での振り返りに加え、冷却期間において実習3か月後に再度振り返りのレポートを作成させることで、学修成果の定着を図った。

取組の成果については

実習期間中の教員・受入先担当者による学生モニタリングを、ICTを活用し実施。学生の報告や疑問点に対し、受け入れ企業担当者より毎日リアルタイムのコメントがあり、教員、学生、企業担当間で情報共有しつつ実習を進めることができ、教育効果も高まった。

評価の段階においては担当教員が受入先に訪問し、評価の根拠の確認と意見交換（カリブレーション）を実施した。産業界等の学生の評価視点を学ぶとともに、学生へのフィードバックを行うことで、学生の学びの目標設定を行う際の指針の一つとして活用できることが確認された。

実習終了後に開催際の成果報告会での学生の発表に対し、受け入れ企業からご意見を頂き、自己評価と企業の評価の違いを認識することで、学生の自己評価能力の向上に繋がった。また、受入企業との情報交換・総括会では、評価委員や協力者からのご意見を通じ、本学のインターンシップに関する問題点を確認することが出来た。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組については

総括会に続き、外部評価委員、協力者会議委員、本学教職員によるインターンシップの情報交換と、今年度の当該事業のこれまでの総括を行った。評価委員や協力者からのご意見を通じ、当該事業における今後取り組むべき課題や方向性、インターンシップルーブリックの活用方法等について整理することができ、今後の継続発展へ向けてプロジェクトメンバーの意識改善に繋がった。

次年度開催のシンポジウムに向けて、今後も外部評価者より意見をいただき、今後の事業における評価尺度の共有化推進に活かすと共に次年度シンポジウムのコンテンツを設定していく予定である。

学内外への波及効果については

本学では年間に5日間のFDを実施していたが、今年度よりFDとSDを発展させ、教職協働の理念の下、PDとして研修を実施することとなった。8/18は「本学のオフキャンパスプログラムの全学的課題と今後の方向性について」の中で、AP事業のインターンシップの取組について学内への共有を行った。学外においては産業界との評価の共有を進め、一部ではあるが採用場面で本学の評価を活用いただける計画を進行している。